

防災通信 34号

発行日	2015年7月12日
発行責任者	大分県防災活動支援センター 理事長 廣瀬 一策
ホームページ	http://opdo.sakura.ne.jp/

防災講話(防災アドバイザー業務)

玖珠町山田笹ヶ原 自治会 老人会
いきいきサロン



■ 6月18日(日) 笹ヶ原公民館

理事長節が冴えわたった講話でした。

玖珠町のシンボリック的存在の「切り株山」を背景に圃場整理された水田が広がるのどかな田園地帯。そこに住む70代の男女が集った。皆さんには一握り大のカエルのマスコットが配られ、参集時にはいつも携帯することになっているらしい。「共にカエル」の意味だとか。公民館の椅子はリクライニングできるから、聴く人も疲れを知らない。ついつい話続けて2時間10分。その後質問、その後又お茶を戴きながら…。10時前によく帰途に就いた。昼は農業に精出して疲れているだろうと思いきや、一人のおばあちゃんが言った、「皆 現役だから、疲れは知らない」さすが～。

日田市玉川町防災会



■ 6月21日(日) 十二町公民館

日田方面は今まで「水害対策について」が主流でしたが、今回は南海トラフが動いた時に、日田地域がどうなるのか、を中心に講話をしました。東日本大震災の揺れの映像を流し震源から500キロ近く離れた所でもあれだけの揺れがあることを考えれば、日田でもしっかり「揺れについての対策」もする必要があると、皆さん全員が認識されました。

大分県自主防災組織活性化支援センター

今回、防災アドバイザー制度を利用された3地区の防災会会長は防災に関して、とても認識度が高く、各々の地域の防災力は必ずアップするだろうと期待しています。

大分市明野日の出町防災会防災研修



■ 6月27日(土) 日の出町公民館 参加者32名

防災会会長/山田軍才氏 防災担当/田中毅氏
明野団地の南端に位置する海拔 約54mの高台にある。津波の心配はないものの背後に小高い山、山中に溜池を抱える地区である。地震の揺れによっては「崖の崩壊」「溜池の決壊」等が懸念される場所で、「日頃の心構えと備え」について池永副理事長が講話。最後に狭間理事が防災グッズの説明をした。後日、田中毅氏から「いい内容の話でわかりやすかった」とお礼の電話を戴きました。

大分市賀来新川防災会



■ 6月28日(日) 賀来新川公民館

地区全域が尼ヶ瀬川氾濫の浸水想定区域になっている。災害時の避難方法は、各自で判断する必要があることを強調。(財前理事の講話)

参加者52名を6班に分けてDIGを実施。水害だけでなく、地震の時の対処法、液状化危険区域になっていることを住民が認識していない。南海トラフ地震が起きた時には震度6強が想定される中で家具器具転倒防止も必要であること等を認識し、家族で防災対策を話し合うようお願いした。

(一水 記)

ホームページを一新しました。是非とも一度ご覧ください
ご要望等がありましたら当センターへご一報ください